

『ミュージックチャイルド』で行った音楽療法の実際 —小グループで行ったセッションの意義—

植松 貴子¹、水谷 千聖¹、和田 玲子²

Music therapy practice at Music Child — Significance of sessions held in small groups —

Atsuko UEMATSU, Chisato MIZUTANI, Reiko WADA

Music therapy can be performed in individual sessions or in group sessions. Individual sessions and group sessions both have the advantages and disadvantages of its own. In this study, a music therapy session called selective silence was held by having two people with completely different personalities. A was not good at expressing himself while B was unable to suppress self-expression. This music therapy session became an example of that each other stimulated each other, which made the session more effective.

キーワード：音楽療法 Music Thrapy、障がい児 children on disability、小グループ Small group

I. はじめに

広島文化学園大学・短期大学 子ども・子育て支援センターでは、平成22年度より特別な支援を要する幼児・小学生を対象とした音楽療法「ミュージックチャイルド」を、非常勤講師とともに行ってきた。23年度から「音楽療法実習Ⅰ」の実習先として、音楽学科の2年生（音楽療法士資格取得希望者）「音楽療法実習Ⅰ」履修学生が、非常勤講師の行う音楽療法セッションを見学している。また、28年度からは、卒業生が音楽療法を学ぶ場として提供し、児童領域を専門とする音楽療法士の育成に力を入れている。

「ミュージックチャイルド」の目的は、音楽をツールとし、意図的計画的に子どもの発達を支援することである。これまで、対象児の行動の変容や発達を促進するとともに、対象児の表現力の向上により、保護者が子どもの変化を喜び、より

望ましい親子の愛着形成が得られたなどの成果が見られている。今回はミュージックチャイルドで実施した事例に関して報告する。

II. 事例の概要

対象児

- ① A 子ちゃん・女兒・幼稚園年中（5歳）（広汎性発達障害）
家族構成：父・母・姉（小4）の4人家族
性格：おとなしい・場面緘黙
コミュニケーション力：話の内容は理解しているが、返事が出来ない。幼稚園でもトイレに行きたいことを先生に伝えることができない。声を出して笑うことがない。
- ② B 子ちゃん・女兒・幼稚園年長（6歳）（水頭症）
家族構成：父・母・弟（4歳）の4人家族
性格・明るい・自己中心的
コミュニケーション力：自己主張はしっかりできるが、話が膨らんで静止しても止まらなくなったり、自らの話に興奮して笑いが止まらな

¹ 音楽療法士
子ども・子育て支援センター ミュージックチャイルド講師
² 広島文化学園大学 学芸学部 音楽学科 准教授

くなることがしばしばある。

IV. セッションの方法と目的

方法：音楽療法士2名（以下MT：音楽療法士の資格を取得して、音楽療法士として仕事をしている卒業生）が実施。スーパーバイザー（筆者）。

場所：本学の音楽療法室

時間：月2回ペース・16時から約30分程度

期間：X年8月～9月（4回）A子ちゃん一人でセッションを実施（B子ちゃんは定期的な入院検査のために実際の参加は10月から）

X年10月～X+1年5月（16回）A子ちゃんとB子ちゃん一緒にセッション）

1名のMTの出産により終了

目的

A子ちゃん：家庭内では暴言・暴力等があり、他人とのコミュニケーションが取れない。好きな音楽を通して自己を表現することができるようになる。

B子ちゃん：場所に応じて適した自己表現ができるようになる。記憶の保持が難しい部分があるので、好きな音楽を通して記憶力や集中力が持続できるようになる。

V. 音楽療法の実施内容と結果

セッションの内容

〈基本のプログラム〉

- 1、HELLOソング：セッションの始まりを意識する。
- 2、楽器活動：目標に合わせた楽器を用い、即興的な音楽を作る。
- 3、歌唱活動：いろいろな歌の歌詞を変えてゲーム的に歌唱する。
- 4、GOODBYEソング：セッションの終わりを意識する。

i 期（A子ちゃん一人でのセッション）

セッション1——一人でセッションを受けるのに抵抗を見せ、母親の同席を求めた。即興的に太鼓をたたく際に、A子ちゃんは叩くテンポが速くなり、どんどん大きな音になっていった。その叩き方は、家で見せている暴力的な部分を感じられるような

叩きかたであった。セッション中両手を後ろに組み、手を隠しているような体勢が多かった。

セッション2——母親の同席希望。HELLOソングでは、少し慣れてきた様子で口角のゆるみが見られた。オーシャンドラム（小さな銀の球がいっぱい入って転がる様が見れる楽器）（写真①）では、玉の転がる様子を目で追って、聴覚刺激より視覚刺激の方が有意な様子だった。セッション中のMTとのコミュニケーションは、まだ言葉にはならず、頷く程度であった。今回もまた、セッション中両手を後ろに組み、手を隠しているような体勢が多かった。



写真①オーシャンドラム

セッション3——父親とセッションに来たが、A子は父親の同席は希望しなかったため、初めて一人でセッションに参加することが出来た。HELLOソングは覚えている様子であった。カラーチャイム（写真②）は、初めての楽器だったが、抵抗することなく取り組むことが出来た。両手をしっかり使って演奏した。今回から両手を隠すような体勢が見られなくなってきた。



写真②カラーチャイム

セッション4—母親と一緒にセッションに来たが、母親が同席しなくても一人でセッションに望むことが出来た。ラッパブギの曲では、A子ちゃんの名前を呼んでラッパ（写真③）を吹いてもらったが、MTがA子ちゃんの名前を続けて呼ぶと、笑って吹くことが出来なくなった。セッション中にしっかり笑ったのは今回が初めてだった。GOODBYEソングでは、MTとしっかりハイタッチをして挨拶が出来た。



写真③ ラッパ

ii 期（A子ちゃんとB子ちゃん二人でセッションを始めた時期：ラポール形成時期）

セッション5—セッションに慣れてきたA子ちゃんであったが、新しい参加者の登場で、落ち着かなく、キョロキョロして周囲を伺っている様子が見られた。初参加のB子ちゃんは、自分の楽器の演奏時はとても楽しそうに演奏していたが、A子ちゃんの演奏の時には耳を塞いだり、A子ちゃんの楽器に手を出したりと始終動いて落ち着かない様子であった。写真④



写真④ セッションの様子

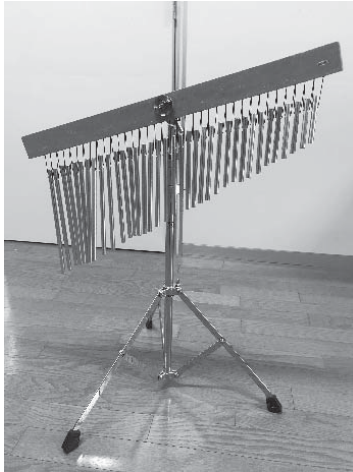
セッション6—B子ちゃんも場所や仲間にも慣れ、MTとA子ちゃん、B子ちゃんの4人でセッションが展開できるようになってきた。B子ちゃんは一つの活動にどんどん発想が広がり、「もう1回」とか、「今度はこうしよう」とか自己主張ができるようになってきた。しかし、もともと自己を表現することが難しいA子ちゃんは、B子ちゃんに押され気味で、少し委縮しているように感じられた。最後にMTが「今日楽しかった人？」と問いかけると、B子ちゃんは「イエーイ」と全身で気持ちを表現し、その場を走って回った。A子ちゃんは黙って手を上げかけたが、その手をすぐ引っ込めた。

iii 期（A子ちゃんとB子ちゃんの個性が表出してきた時期）

セッション7—楽器活動時、二人で順番が守れるようになってきたが、B子ちゃんは、音楽療法の時間が自由に自己表現できる時間と認識したらしく、上手く楽器演奏ができない時は、「次これしよう」とほかの楽器に目移り、少しわがままな様子になってきた。自分にスポットが当たっていないと活動をやめたがったり、自分に都合が悪いと話をそらしたがる傾向が見受けられた。A子ちゃんと一緒に歌おうと言ってもなかなか声を出して歌うことはせず、楽器活動では、そのたまったエネルギーの発散のように、シンバルを激しくたたいたりする場面が見られた。しかし、途中、好きな果物をリズムに合わせて質問する場面ではB子ちゃんの勢いに吞まれて「みかん」と初めて声を出して答えることが出来た。GOODBYEソングでは、MTと一緒に歌うことを誘ったが、結局二人とも歌わないまま終わった。

セッション8—一曲の始まりをみんなで意識して、声掛けが無くても息を合わせることができた。

A子ちゃんは、セッション中ツリーチャイム（写真⑤）の音を聞いて感想を聞くと「きれいだった」と一言だけ答えた。B子ちゃんは、相変わらず、活動に対していろいろな発想が止まらず、どんどん自分の世界を展開していった。この時期、MTもB子ちゃんのわがままをどのくらい受け止めて、また制していくべきかと悩んでいた。



写真⑤ツリーチャイム

iv期(リミットセッティングをしっかりと伝えた時期)
セッション9—A子ちゃんは見学に来ていた学生にも楽器を配ったりと他の人に気を遣うことが出来た。B子ちゃんは相変わらず「これやりたい。あれやりたい。」と、集中力がなく、よそ見が多かった。しかし、MTのしっかりとした呼びかけに(スーパーヴァイズで、セッション中、ダメなことははっきり対象児に伝える【リミットセッティング】よう指導した)、着席したり、気分の高まりを抑制したりすることができた。

セッション10—冬休みを挟んでのセッションで、二人とも少し落ち着いた様子で始まった。A子ちゃん、B子ちゃん、MTで、coll & ResponseがB子ちゃんはcollは上手にできるのだが、Responseはふざけて全くできない。B子ちゃんの提案で「うみ」の歌を「うみは広いなドラえもん」で歌おうと言うことになった時、A子ちゃんは笑っていた。大きな布を使用した時、A子ちゃんはみんなの体全体が布に隠れるように布の配置に気を使っていた。

セッション11—A子ちゃんは依然として腕を後ろに組んでいることが多いが、B子ちゃんの様子を見て、笑うことも多くなってきた。マラカス(写真⑥)を使用して『おもちゃのチャチャチャ』を演奏した時、B子ちゃんは歌って踊ったが、A子ちゃんは歌わないし、踊らなかった。

A子ちゃんは、曲の合間に楽器を鳴らすタイミングがリズムを感じてとても上手にできている。GOODBYEソングでは、B子ちゃんはセッションを終了したくなくて、何度も歌おうとする。その間、A子ちゃんは腕を後ろに組んで頑なな表情



写真⑥マラカス

をしていた。

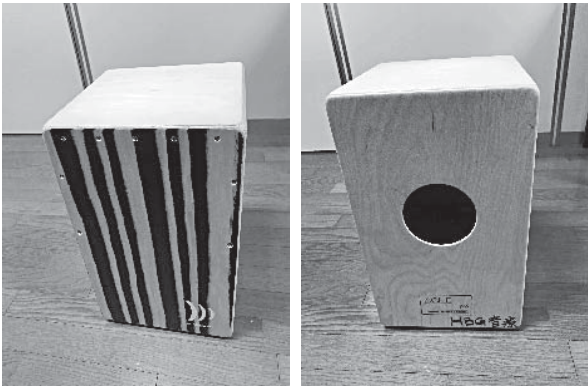
セッション12—B子ちゃんは始終、次の楽器が選びたくてそわそわしていた。右手と左手を交互に使用してジャンベ(写真⑦)をたたく活動では、A子ちゃんはしっかりと右手と左手を認識していたが、B子ちゃんは時々間違えていた。ラッパを吹く活動の時も、A子ちゃんは、MTの目をしっかり見て反応していたが、B子ちゃんは、足をバタバタさせて落ち着かない様子であった。



写真⑦ジャンベ

v期(音楽性を育てるセッションを展開した時期)
セッション13—実際の生活におけるいろいろな環境の変化に対応できるように、新しい楽器を導入した時に抵抗なく取り組めるようにと考え、これまで使用したことのない楽器カホン(写真⑧)を提示した。A子ちゃんはすんなり楽器に馴染むことができたが、B子ちゃんは少しぐずぐずして馴染むのに時間がかかった。また表現力を豊かにするために、セッション中にMTが、「静かな音を

出してみましょう」などの声掛けを行った。B子ちゃんは楽器に対しての力加減がまだ理解できておらず、静かな音・優しい音の表出は難しかったが、A子ちゃんは上手く表現することが出来ていた。自己表現が収まらなくなり暴走気味のB子ちゃんに対してMTは、しっかり順番を守ることを促した。



写真⑧カホン

セッション14—今回も新しい楽器として、初めてトレインホイッスル (写真⑨) を使用した。二人とも抵抗なくトレインホイッスルを中心に音楽を楽しんだ。大きなスカーフを使用して『静かな森の大きな木』の曲に合わせて動いたが、A子ちゃんもB子ちゃんも、静と動を上手に表現できていた。この頃からB子ちゃんはなんでも自分中心にやりたい気持ちが抑えられるようになり、A子ちゃんはB子ちゃんが自ら演奏する姿を受け入れて、とてもうれしそうな表情に変化していった。セッションの最後には必ず、今日のセッションの感想を言語化することを試みた。



写真⑨トレインホイッスル

セッション15—この頃から、それぞれの順番を待てるようになってきたので、楽器活動では、それぞれが違う楽器を持ち、それぞれの役割を受け持ってもらった。お互いの楽器の音色の違い等を意識して、それぞれの役割を上手にこなせるようになった。

セッション16—それぞれが卓上ベル (写真⑩) を順番で鳴らして音階を作っていく活動では、各自上手に交代しながら演奏ができた。B子ちゃんも以前は、自己主張を通そうとしたが、前回のセッションから、順番ということ意識して、自己を抑ええることが上手にできるようになってきた。また、なかなか自己を表現することが難しかったA子ちゃんも、B子ちゃんの様子を見ながら、笑顔の時間が増えていった。



写真⑩卓上ベル

セッション17—B子ちゃんは小学一年生になり、環境が変化したためとても疲れていて意欲が下がっている。しかしセッションの後半に二人の好きな『ラップパギ』になると、二人とも元気に演奏できた。特に「小さな音で」「大きな音で」というラップを吹く力加減が上手にできていた。最後のGOODBYEソングでは、A子ちゃん、B子ちゃん、MTと仲良く手をつないで歌を歌うことができた。歌を歌うことが苦手なA子ちゃんも自然と歌を歌っていた。

セッション18—小学校に慣れないB子ちゃんは、セッションに来る途中に眠ってしまったようで、前半とても元気がなかった。役割分担でB子ちゃんがVocal担当の時はスムーズに演奏できたが、A子ちゃんがVocal担当の時はA子ちゃんは声が出ず、苦痛な表情になった。